

令和3年度 第10回
高石市防災シンポジウム
報告書

高石市総務部危機管理課

第 10 回（令和 3 年度）高石市防災シンポジウム
『複合化する災害から命を守る』

日 時 令和 3 年 8 月 31 日（木） 開始 9 時 30 分
終了 正午

場 所 たかいし市民文化会館「アプラホール」

第 1 部 基調講演「複合化する災害から命を守る」

講演者：

兵庫県立大学 減災復興政策研究科 教授 阪本 真由美 氏

第 2 部 パネルディスカッション

「ひとりひとりが躊躇（ちゅうちょ）なく避難行動をとれ、
助け合える地域づくりに向けて」

コーディネーター：

兵庫県立大学 減災復興政策研究科 教授 阪本 真由美 氏

パネリスト：

第 13 区東羽衣自治会自主防災会 代表 鈴木 保 氏

平坂荘園自治会自主防災会 代表 山路 駒子 氏

株式会社バカン 代表取締役 河野 剛進 氏

高石市 副市長 福井 淳太

聴 衆 約 180 人

（自主防災組織、民生委員、各種団体、防災会議委員、教育保育機関
高石防災協会加盟企業ほか）

防災シンポジウムの開催にあたって

令和2年より猛威をふるっている新型コロナウイルスの感染症は、収束することなく、社会経済に大きなダメージを与え、また住民の生活にも大きな影響を与え続けています。

一方、全国各地では、大規模な自然災害が頻発化、激甚化しています。特に昨今では、大雨による被害は甚大であり、平成30年の広島市安佐北地区や倉敷市真備町をはじめ、令和2年の九州熊本地方や岐阜、長野、さらに今年の熱海市、雲仙、岡谷市など、記録的な降雨により特別警報が出され、河川の氾濫が相次ぎ、土砂災害や浸水害等が発生しております。また、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、平成30年の大阪府北部地震など、全国的に大きな地震等も頻発しています。

このような全国各地での災害の発生状況等を踏まえ、国では本年5月20日に災害対策基本法が改正され、避難指示への1本化など避難に関する情報が改められました。また本市では、内水・洪水、高潮、津波のハザードマップや避難情報の変更も踏まえた災害時の対応方法、日頃からの備えなどをまとめた「高石市総合防災マップ」を7月に各ご家庭に配布し、防災の自助・共助の啓発に努めています。

このような状況等を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の予防策を講じながら、本市では8月31日に、第10回高石市防災シンポジウムを開催いたしました。

第1部の基調講演では、兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科の阪本教授に「複合化する災害から命を守る」をテーマとして、東日本大震災で得られた教訓や調査データを活用しながら、発災時における避難情報の取得から避難後のコロナ禍を踏まえた避難所生活までの「命を守り、助かった命を守る」ための行動についてご講演いただきました。

また第2部では、阪本教授に加え、共助の取り組みとして「地区防災計画」の作成を進めている地区を代表して第13区東羽衣自主防災会の鈴木代表と平坂荘園自主防災会の山路代表、また本年6月4日から本市でも運用を開始している、災害時に避難所の開設状況や混雑状況をWEB上で確認できる「VACAN Maps」を提供している株式会社バカンの河野代表取締役、本市副市長の福井の5名により「ひとりひとりが躊躇（ちゅうちょ）なく避難行動をとれ、助け合える地域づくりに向けて」をテーマにパネルディスカッションを実施し、自助・共助の必要性や取り組みを周知しました。

危険が迫ったときまたは迫りそうなとき、ひとりひとりが自らの命を守るため、躊躇（ちゅうちょ）なく避難行動をとること（自助）、またひとりで避難が困難な人は周りの人がサポートをすること（共助）がより多くのいのちを守るために必要です。

今後も引き続き、防災シンポジウムや毎年11月の地震津波総合避難訓練などにより、自助・共助の取り組みを進め、地域防災力の向上に努めて参りたいと存じますので、市民の皆様のご理解とご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



第1部 基調講演、第2部 パネルディスカッションの概要

第1部 基調講演「複合化する災害から命を守る」

講演者： 兵庫県立大学 減災復興政策研究科 教授 阪本 真由美 氏

<事前に何をすべきか考えましょう>

新型コロナウイルス感染症が拡大しているなか、高石市は南海トラフの海溝型地震や津波、阪神淡路大震災のような直下型地震、台風（高潮）・豪雨などの災害に備えないといけません。阪神淡路大震災では亡くなった6千人のうち、約千人は災害関連死です。災害から自分の命を守る自助に加え、助かった命を守ることも、災害発生前に学んでいただきたいと思います。

<東日本大震災から学ぶ>

東日本大震災における津波からの避難行動についての調査では、6割の方はすぐ逃げた、3割の方は何か行動をしてから逃げた、1割の方は津波にあいかけたという結果です。しかし、津波被害にあった方も含めるとまた結果は違うと思われます。三陸沖の地震は過去にも発生しています。事前にハザードマップも各世帯に配布し、毎年避難訓練も実施していました。また、東日本大震災は昼間の地震でした。市町村は発災後に避難指示も出していました。しかし、実際、すぐに逃げない方が多かったのです。

<避難トリガー（きっかけとなる情報・状況）と避難スイッチ（判断する目安）>

避難するために大切なことは、逃げ時と逃げ場所を知っておくことです。

避難するきっかけは情報です。今年5月には災害対策基本法が改正され、市町村が出す避難情報である警戒レベル4が避難指示に1本化されました。これら行政が出す避難情報よりも早く、自身で河川の水位など様々な情報を得て、こういった状況になったら危険なのかを知っておくことがより望ましいです。

また今年、市から配布されたハザードマップも大事です。ハザードマップで自分の家をまず探してみてください。また、ハザードマップではどのような前提条件で作成されたものなのかを知っておくことも重要です。ハザードマップはどこが危険かを示した地図であり、どこが安全なのかを自身で読み解かないといけません。

避難の判断については、実際に被災した地域での調査では、若い世代は携帯電話等で情報を取得することが日常化しているため情報に敏感であり、情報を得ることで危機意識を感じて避難することに結びつきますが、高齢者は情報が避難に結びつきにくく、周りの人の声かけが避難に結びついているという結果が出ています。

全国では、両隣と向こう3軒の世帯で声をかけるグループをつくる取り組みや、マンションのワンフロアでグループを作るといった、声かけの仕組みも作られ始めています。

また、障がいがある方は健常者に比べて死亡率は高い状況です。障がいをお持ちの方には、声かけだけではなく、避難のために支援が必要となります。避難行動要支援者ごとに誰がどこに避難させるのかが重要であり、個別避難計画の作成が必要となります。

<コロナ禍における避難>

コロナ禍での避難については、感染を防ぐため、少人数・分散避難が良いと考えられます。また、飛沫感染・接触感染を防ぐためには、避難所での受付が大切な役割を担います。受付では人数や健康状態、要支援者のニーズなどの情報を把握することが重要です。人数確認だけでも、食糧や物資などの手配ができます。受付も含め避難所の役割は行政職員だけではなく、地域の方も行い助け合うことが必要となります。

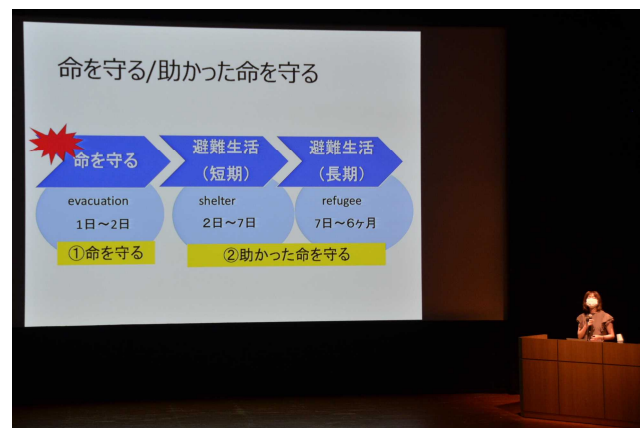
また、コロナ禍の避難所では人と人とが接触しないスペースの確保も必要です。「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック」など、コロナ禍での避難生活における様々なマニュアルやサポートブックが出ていますので、参考にさせていただきたいと思います。加えて、避難生活で考えておくべきことは、避難所に行かない、または、行けない避難者もいるということです。過去の災害では、避難所に来た避難者は全体の3分の1程度でした。自宅の2階が無事であれば2階で生活する方もいます。避難所外で避難する方にも物資を届ける仕組みも考えておく必要もあります。

<災害に強い地区をつくる>

地区防災計画は地域の人々で作る計画であり、東日本大震災の反省を踏まえて作られた仕組みです。地域住民が主体となり、防災を考える計画です。自助でやること、共助でやること、災害発生前、災害発生後など、地域として決めたことを市の計画に反映することができます。例えば四日市市では女性にも配慮したスペースの検討や、要配慮者のサポートとして段ボールベッドを組み立てなどの訓練を実施しており、全国で様々な取り組みや訓練が行われています。

災害に強い地区というのは私はあると感じています。日頃から防災活動に取り組んでいる地区や、老人会や子供会・商店街や企業などいろいろな人を巻き込んでいる地区、顔の見える関係が作られていたりやどんな人がいるのかを知っている地区などです。

南海トラフは必ずきます。想定外にしないように、もしきたらどうするのかを常日頃から考えていただきたいと思います。



第2部 パネルディスカッション

「ひとりひとりが躊躇（ちゅうちょ）なく避難行動をとれ、
助け合える地域づくりに向けて」

コーディネーター：

兵庫県立大学 減災復興政策研究科 教授 阪本 真由美 氏

パネリスト：

第13区東羽衣自治会自主防災会 代表 鈴木 保 氏

平坂荘園自治会自主防災会 代表 山路 駒子 氏

株式会社バカン 代表取締役 河野 剛進 氏

高石市 副市長 福井 淳太

＜高石市 副市長 福井 淳太＞

危機管理の基本は、災害を正しく恐れることです。どのような災害でどのような危険が自身にふりかかるのかを総合防災マップなどで確認してください。次に自分の命を守るために情報を収集し、勇気を持って躊躇無く避難行動をとってください。そして、余裕があれば助けが必要な方を地域ぐるみで守り、多くの命を助けてください。このような取り組みを地域の地区防災計画として取りまとめ、皆が同じ認識を持つことが重要です。

＜株式会社バカン 代表取締役 河野 剛進 氏＞

バカンマップは、避難所の開設状況や、4段階での混雑状況が地図上で把握できる災害時の支援ツールです。コロナ禍では「密」状況の把握が重要になるため、ぜひご活用ください。一人ひとりに「自分の命を守る行動」をとってもらい、その上で助けが必要な人には地域ぐるみで支える仕組みづくりを私も一緒に実現していきたいです。

＜平坂荘園自治会自主防災会 代表 山路 駒子 氏＞

私の自治会では、総合防災マップの配付を契機に、市の防災担当にも相談しながら、地区防災計画の一項目として『声かけマップ』を作成しました。これは、災害時に声かけの必要がある方がどこに住んでいるのか、一目でわかるものです。このような計画を自治会の役員だけでなく、地域の住民一人ひとりが理解し、同じ行動をとれるようにすることが、地域で助けが必要な人を守ることに繋がっていると思っています。

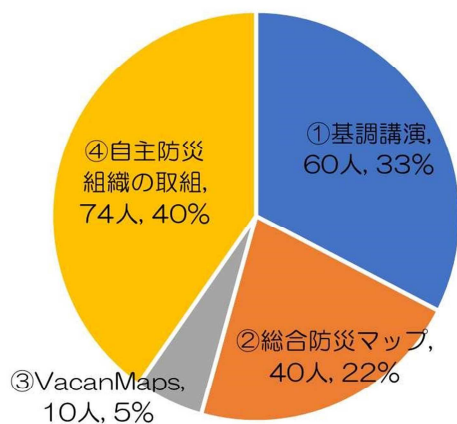
＜第13区東羽衣自治会自主防災会 代表 鈴木 保 氏＞

地区防災計画に基づく取り組みを進めるためには、若い世代の力が大切です。平時からだんじり祭などで若い世代とのつながりを持ち、色々な話をする中で防災の話をするなど、関心を持ってもらうための工夫をしています。また、向こう三軒両隣作戦」と名付け、平時からご近所どおしが声かけをしながら動くことを習慣づけています。さらに、災害時に玄関にタオルをかけることで安否確認ができるように、鉢巻きタオルの配付も考えています。常に課題を出し、検討を続ける地域づくりを心掛けています。こうした取り組みの継続により、まち全体の防災意識を高めていきたいと思っています。

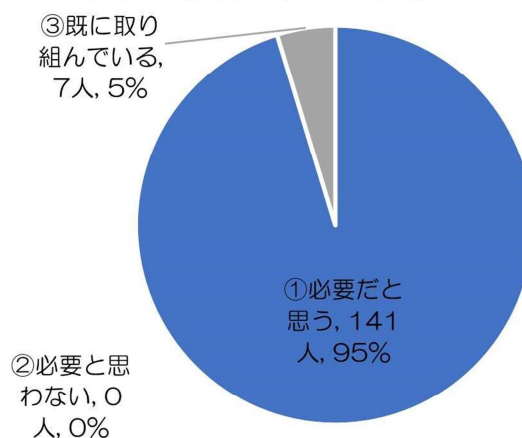


アンケート結果

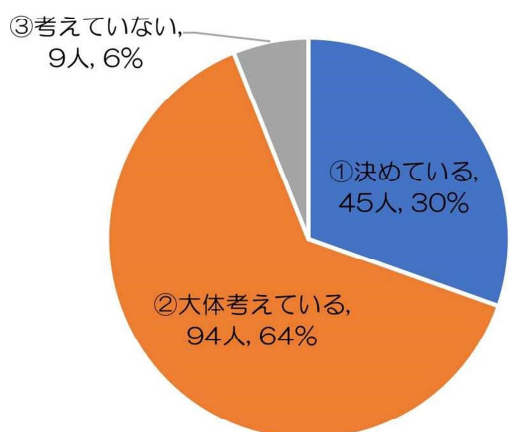
1. シンポジウムでもっと聞きたいと思った部分（複数回答）（n=126人）



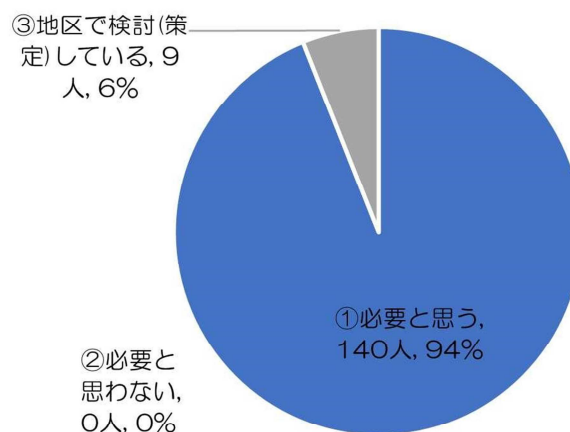
2. 災害時の自助、共助の取組について必要だと思いましたか。（n=148人）



3. 災害時に備えて、あなたはどのように行動すべきか考えていますか。（n=148人）

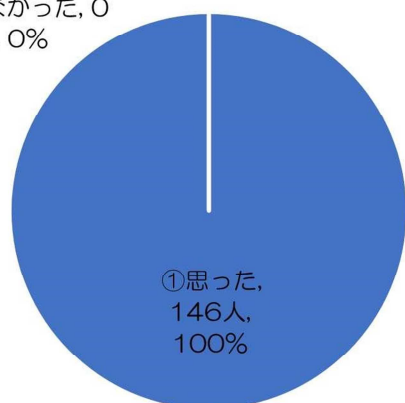


4. 災害時に備え、地区防災計画の必要性を感じましたか。（n=149人）



5. 家でもう一度防災マップを見直してみようと感じましたか。（n=146人）

②思わなかった, 0人, 0%



6. 主なご意見

＜基調講演について＞

- ・阪本教授のお話がわかりやすかったです。
- ・阪本教授のデータが具体的で理解できた。
- ・最新の防災知識を教えていただいたように思う。
- ・今一度考える事ができ、勉強になりました。一人でも多く訓練に出て、自分の命は自分で守ることの大切さを伝える事が出来るように、伝えたいと思いました。
- ・総合防災マップの活用をできるようにしたいと思いました。
- ・複合化災害の認識ができた。
- ・さわやかな語り口で内容の良くわかる講演でした。家族や身近な人と話し合います。
- ・今までは全く関心を持たなかったが、考えないといけない事がわかった。
- ・漠然と考えていましたが、阪本先生の講演を聞いて、もっと真剣に自分なりの避難全般の行動予定を考えたいと思った。
- ・阪本先生の基調講演、限られた時間で分かりやすく、心掛、組織作り等々、勉強になりました。教えて頂いた事、地域に持ち帰り、活かせるよう努力したいと思いました。
- ・基調講演に関して資料があればと思いました。
- ・実践に役立つ有意義な講演でした。
- ・災害発生時の対応と発生後の対応についても考えておくことは、必要大である。

＜パネルディスカッションについて＞

- ・となり近所での協力が必要と感じました。
- ・地域地域の対策が様々なので、地域独自で考えることが大事だと思った。
- ・南海トラフに備えて住民主体の活動をきちんとする。具体的に活動レベルを行動化へと変える取りくみに変える。
- ・パネリストの方々の話をもっと聞きたかった。
- ・いつ災害がくるかわからないので、避難への場所や持ち物など、もう一度家族と話し合いたいと思いました。また、地域の方たちとも話し合い、訓練もしなくてはならないと思いました。
- ・改めて災害に対する意識が強くなりました。
- ・各地区で具体的にどこへ避難するか決めて、11/5の訓練に備えたらよいと思う。
- ・話の内容は大変よく理解出来ました。常日頃の会話が大切に思います。
- ・2地区の自主防災計画の話しが良かったです。
- ・パネルディスカッションもそれぞれの意見がよくわかりました。
- ・声かけ必要だと思った。

<その他>

- 今まで他人事の様に思っていたましたが、初めてこのようなシンポジウムに参加出来てよかったと思いました。
- 時間は予定通りにすべき。
- 高石市は防災訓練にもっと力を入れるべき。訓練の必要性を市民に訴えてください。
- 今回作られたハザードマップは大変良くできているので、市民の皆様の意識をもっと高めるように、周知する方法を考えていくようにしてほしい。
- ハザードマップをよく知る。自分の住んでいる所の確認。南海トラフ地震30年以内80%いつか来る。近々くる。
- 高石市は防災シンポを熱心で開催していただいています。南海トラフ型地震が近づいていて大変有意義です。これからもよろしくお願いします。
- 防災マップの必要性が理解できました。
- もう一度マップを見返そうと思った。
- 大事なことなので、シンポジウムにもっと多くの人に参加をして頂きたいです。
- 自分の避難場所をしっかり知っておきたい
- 勉強になりました。自助、公助、共助を必要です。
- 防災の重要性はわかりました。